

機関報告

ベオグラード大学日本語・日本文学専攻課程概要(2009/2010)

日本語・日本文学専攻課程は、ベオグラード大学文学部東洋学科に属し、セルビアにおける日本学研究の中心的な役割を果たしている。1976年、選択科目としての初級レベルの二年制日本語コース開設がされ、1985年には中級レベルまでの日本語教育のほか、日本文学史、文明論などもあるカリキュラムを組み四年制の専攻課程を発足、今日に至る。現在は、1年から4年まで約300名の在籍者がいる。教官は、教授2名、常任講師4名、助手2名、非常勤講師2名、客員講師2名(日本語を母語とする教官は4名)。2006年より東京外国語大学日本語教育センターの協力をえて、同大学修士課程を修了した専門家を客員講師として招聘、現在は渚上真由美講師、岡田さやか講師を中心に、漢字、文法、会話など日本語教育が大きく変わりつつある。また現地教師たちとのよき輪が生まれ、新風が吹き起こっている。

本年の活動

翻訳活動『古事記』、本年度日本翻訳者協会特別賞受賞

山崎洋氏を中心にダニエラ・ヴァシッチ、ダリボル・クリチコヴィッチ、ディヴナ・グルマツツの四氏が、七年を費やして完成した『古事記』のセルビア語訳は、本年度、日本翻訳者協会特別賞を受賞。11月27日に神田学士会館で授賞式が行われ、山崎洋氏が代表で出席した。なお、セルビア文学翻訳協会のミロシュ・ジュリッチ賞候補にも選ばれた。

『詩を巡るワークショップ』(慶応大学教養研究センター、外国語教育センター共催)

本年11月25日、慶応義塾大学日吉キャンパスにて、山崎佳代子が『詩を巡るワークショップ』を行った。紅葉の美しい夕暮れ、外国語教育専門家からこどもまで、詩を通してよい時を分かち合った。

ベオグラード大学で初の JLPT 実施

本年12月6日、セルビアで初めて、ベオグラード大学は JLPT(日本語検定試験)を実施した。7月より渚上真由美講師のイニシアティブでスタッフが準備を開始。予想をはるかに上回る98名の応募があり、ザグレブ大学からも5名の応募があり2名が受験した。

ベオグラード大学にて柴田元幸氏の特別講演

本年12月7日、柴田元幸教授(東京大学)を教室にお招きし、翻訳論、現代文学についてお話をうかがった。約30名(3年生4年生)が参加、質疑応答も活発で素敵な授業であった。

日本語ポートフォリオ導入

渚上講師、和田講師が発案(ダリボル・クリチコヴィッチ講師協力)、日本語ポートフォリオが日本語演習に導入された。学習進度がはっきりと分かるようになり、学生にもよい刺激となった。

留学状況

サーニャ・ヨカ氏 東京外国語大学修士課程(文科省)

イエレナ・ニコリッチ氏 岡山大学修士課程(伊藤財団奨学生)

ゴラン・クリスティッチ氏 奈良教育大学(学部留学、文科省)

ダニツァ・アクセンティエヴィッチ氏 中央大学(学部留学、中島平和財団奨学生第3期)

交流状況

中央大学、広島大学、岡山大学、東京大学、明治大学(本年度より)、東京外国語大学(協定手続開始)